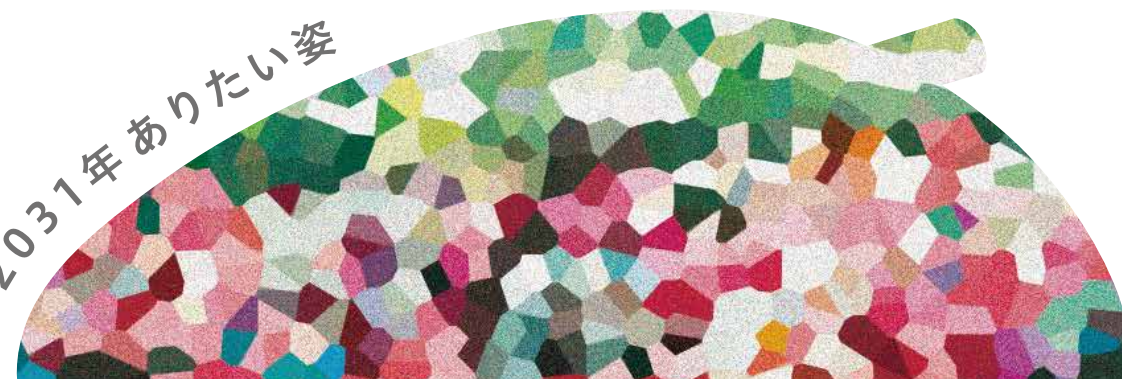
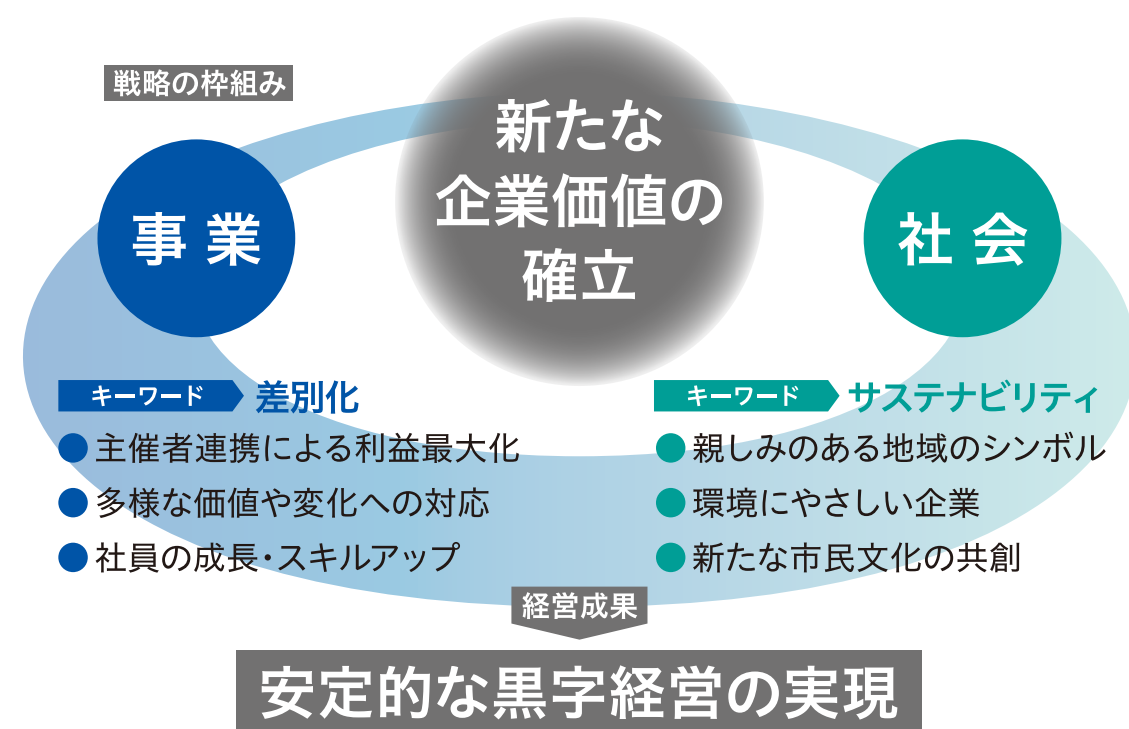


SAPPORO DOME VISION 2031 (SV-31)

2031年 ありたい姿

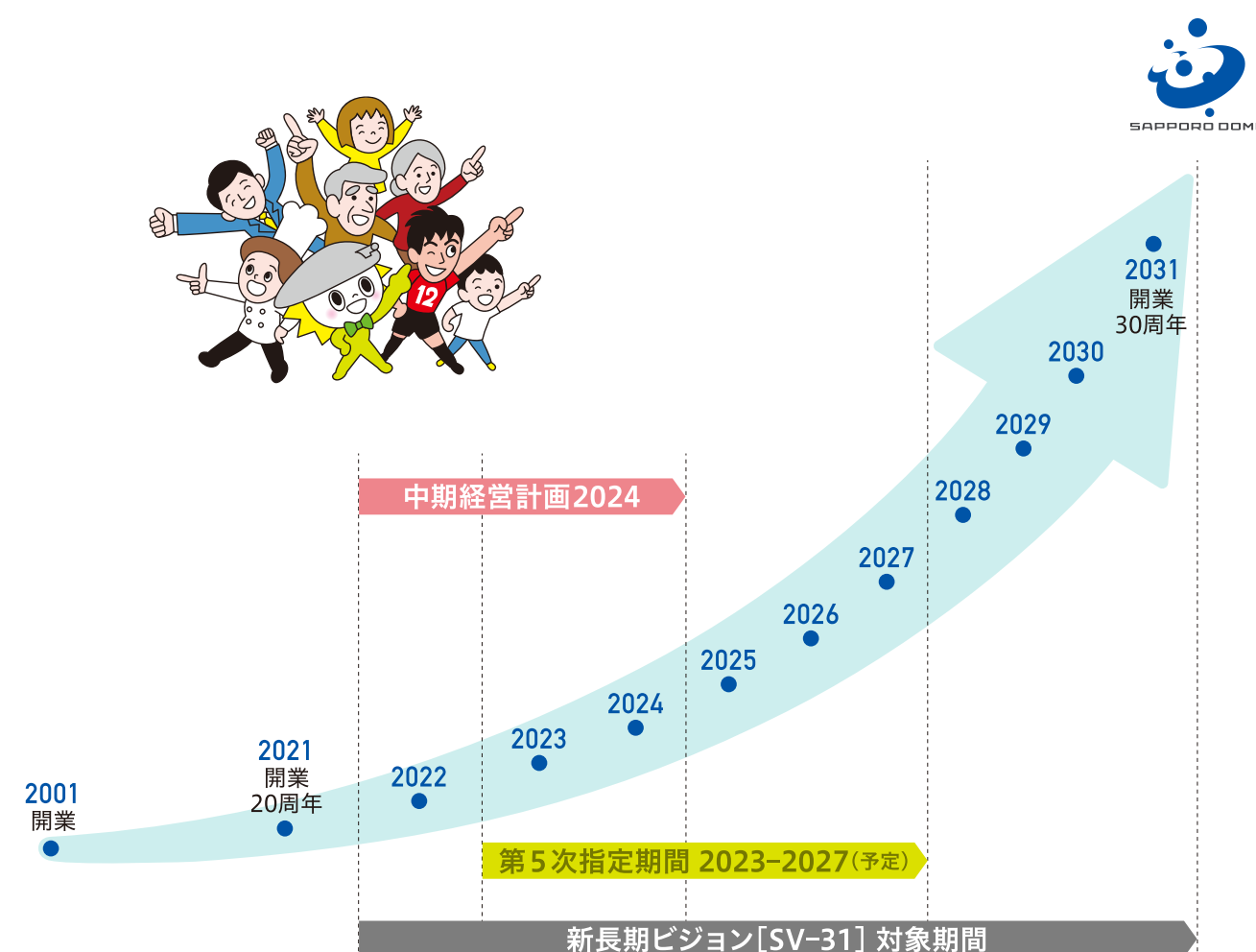


賑わい愛される施設
そして、信頼される企業へ
～その次の10年を見据えて～

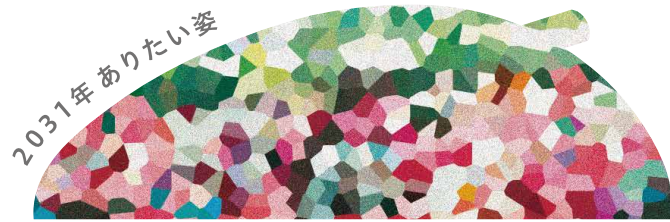


今後10年の指針となる 新長期ビジョンを策定しました。

2021年の開業20周年という節目を越え、
私たち札幌ドームは、「第二の創成期」ともいえる
新たなスタートラインに立っています。
次の開業30周年に向け、札幌ドームのあるべき姿と役割を見つめ直し、
事業を通して社会課題の解決や地域社会の発展のためお役に立てるよう、
札幌ドームは、今後10年の指針となる
新長期ビジョン「SAPPORO DOME VISION 2031(SV-31)」を策定しました。
北海道のスポーツ・エンターテインメントの発信地として市民道民の皆さまに末永く愛され、
持続可能な社会の実現に貢献できる施設を目指していきます。



SAPPORO DOME VISION 2031 (SV-31)

長期ビジョン[SV-31]に基づき
中期経営計画2024を策定

株式会社札幌ドームは、開業30周年の2031年を目標年度とする長期ビジョン[SV-31]の実現に向け、当初3カ年(2022～2024年)の計画として「中期経営計画2024」を策定しました【P.14参照】。この計画では、基本方針である「黒字経営の実現」のため、「事業」と「社会」を両輪とする基本戦略と主な取り組みを位置づけています。

これらを全社で着実に推進することにより、札幌ドームの価値をしっかりと未来につないでいきます。

長期ビジョンの策定に携わりました



営業部 営業一課
担当課長

和田 敏弥

Wada Toshiya
2006年入社

経営企画室 経営企画課長 兼
総務部 総務課 担当課長

武田 健次郎

Takeda Kenjiro
2004年入社

10年後へのビジョンを
全社員で共有し、
前進していきます！

賑わい愛される施設
そして、信頼される企業へ
～その次の10年を見据えて～

札幌ドームの指定管理者として
適切な管理運営を進めます

当社は、札幌市から札幌ドームの指定管理者として選定され、現在は第4次指定期間(2018～2022年度)の管理運営を行っています。

中期経営計画2024の期間には、次の第5次指定期間(2023～2027年度)の審査および選定手続きが予定されていますが、当社は指定期間に限定することなく、常に中長期的な視点で地域の皆さまに親しまれる施設を目指し、今後も札幌ドームの管理運営業務を遂行していきます。

長期ビジョン[SV-31]のポイント

武田 長期ビジョン「SAPPORO DOME VISION 2031 (SV-31)」は、株式会社札幌ドームにとって2022～2031年の経営上の指針となるものです【P.11参照】。2031年ありたい姿として「賑わい愛される施設 そして、信頼される企業へ ～その次の10年を見据えて～」という目標像が示され、その実現に向けた戦略の枠組みとして、「事業」と「社会」の両面から相乗的に「新たな企業価値の確立」を目指すことが位置づけられています。

和田 策定にあたっては、各部署の30代・40代社員を中心に私たちを含む14人が策定メンバーに任命され、2021年夏から秋にかけて議論を重ねてきました。

武田 今後10年は、札幌ドームの経営環境が大きく変わっていく10年。最大の利用者である北海道日本ハムファイターズさまが2023年に新球場へ移転するので、それ以降も経営を安定的に形づくっていくことを重要なミッションだととらえ、策定に臨みました。

和田 そうですね。10年後を担うわれわれの世代が未来を考える貴重な機会なので、自分自身がどう働いていき

中期経営計画2024

基本方針

黒字経営の実現

～多種多様なイベント開催による貸館事業の活性化と新たな賑わいの創出

基本戦略と主な取り組み

事業

- 1 主催者連携による利益最大化**
- 3万人を目指したコンサドーレとの連携
 - コンサート年20日開催の実現
 - コンベンション年30日開催の実現
 - 広告販売の収益最大化
 - 主催者に有益なサポート・バックアップの強化
 - 変動比率の抑制、経費削減

- 2 多様な価値や変化への対応**
- 新規自主イベントの開催・定着
 - 変化に応じた来場者サービスの提供
 - 札幌市との新たな連携

- 3 社員の成長・スキルアップ**
- 高いプロ意識を持った人材育成
 - 良好な社内コミュニケーションの促進
 - 将来を見据えた採用計画の立案・実行



社会

- 4 親しみのある地域のシンボル**
- コンプライアンスの徹底
 - 安全安心快適な施設運営
 - CS(顧客満足度)・ES(従業員満足度)向上への取り組みの継続
 - 地域連携の推進
 - 市民・観光交流施設としての魅力向上
 - 適時適切な広報によるファンづくり

- 5 環境にやさしい企業**
- CO₂排出量削減に向けた取り組みの推進
 - ごみ排出量削減に向けた取り組みの推進

- 6 新たな市民文化の共創**
- SDGsへの積極的な取り組み
 - プロ野球観戦文化の継続
 - ラグビー観戦文化の創出
 - アマチュアスポーツ・市民参加型イベント等の開催

たいかを具体的にイメージしながらプロジェクトに携わりました。

策定作業を通じて再確認できたこと

武田 策定の過程では、多目的に使える大空間の全天候型施設という札幌ドームの価値を再認識しました。札幌ドーム条例に定められた設置目的には、「スポーツの普及振興」「市民文化の向上」「地域経済の活性化」が掲げられています。つまり、多種多様なイベントの開催を通して、より多くの市民道民の皆さまに楽しんでいただける施設であるとともに、札幌の経済活性化に寄与できることが原点だと思います。

和田 私も施設の価値を再確認できたことで、仕事に臨む道しるべができました。また、策定メンバーは仕事内容や立場が違っていて、「10年後にこうありたい」という方向性は皆同じなんだという手応えがありました。さらに今後、ベテランから若手までの全社員が同じ方向を見て進んでいくためには、長期ビジョンに対する納得と共感が重要だと思います。部門や世代を超え、誰が見てもわか

りやすい言葉とイメージを共有していくことが大事だと思います。

武田 その通りですね。長期ビジョンの意味合いを後輩や課員に伝えていくことも、私たちの重要な役割だろうと思います。

札幌ドームの未来に願いを託して

武田 より良い会社と施設を目指すうえで、部門を超えて議論ができたことは非常に意義があったと思います。今後も“全体最適”の視点で議論をできる場があればと思います。私自身も、担当業務の中で札幌ドームの存在価値を一層高められるよう貢献したいと思っています。

和田 札幌ドームの施設としての可能性をさらに広げるために、お客さまの多様なニーズに応え、新しい価値を創造していけたらと思います。また、2021年に開業20周年を迎えることができたのは、多くの皆さまにご利用いただき、市民道民の皆さまに支えていただいたおかげです。これまで以上に、皆さまと一緒に札幌ドームの価値を創り上げていきたいと願っています。